

アメリカに行ってきた。といっても1年以上前の話になる。LAの知り合いを訪ね、ケンタッキー・ルイビルファームショウで将来の北海道農業を描き、ノースダコタでは取引先の農機具屋とドーナッツを食べながらロシア人の担当者で打ち合わせをした。

江別の暗渠屋さんと私はノースダコタ州のファーゴからレンタカーを使い、ミネソタ州の通称ツインシティーと呼ばれるミネアポリスに向かった。寄り道をしなければ5時間のドライブになる。

じつは寄り道をして暗渠の勉強会に参加した。アポなし参加はできないので、2カ月前にクレジットカードで\$200の支払いをして申し込みを済ませてあった。

向かった場所はミネソタ州南西部マーシャルにある、学費が年間\$8000と格安なサウスウエスト・ミネソタ州立大学の農学部講堂だ。主催はミネソタ州立大学とミネソタ州、ノースダコタ州普及所。

アップルビーの金髪・ブルーアイ

カーナビを使い3時間かけてホテルに到着した。夕食は若者に人気のアップルビーだ。チェーン店なので中西部のそこそこの町に行けば必ず

ある。安心度抜群のはずなのだが……。

日本と同じように必ず入り口に立ち、案内されるのを待つ。担当の金髪・ブルーアイのウエイトレスにカウンターを進められたが、しつかり座って食事をしたかったのでテーブル席を希望した。

我々2人が案内された席に座ると何かおかしい。お尻を持ち上げてシートを触ると少し表面がめくれていたのでズボンと擦れてしまったのだ。シートは広いし20cm移動すれば問題ないが、店内は19時になってもガラガラなのに、こんな席に案内しやがって。わざとこんなシートにと疑ってみたが、そうではなかった。帰り際に他のシートをのぞき込むと似たような感じで、たぶん一番程度の良いシートに座らせてくれたのだろうと勝手に解釈することにした。

席に着くと飲み物を聞かれた。今日は朝からミルクを飲んでいないな一と思出し、ウエイトレスに「熱いミルクにして、マイクローウェーブで120秒、よろしくね」と伝

Vol.108 尊敬の眼差し



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

えた。相方はビールを頼んだ。

私は朝食にミルクティーを飲む。マグカップ半分にお湯を入れ、紅茶パックを入れ2分ほど待ち、パックを取り出しローファットではないミルクを注ぎ、700Wの電子レンジで70秒ほど温めると、ちよっと熱めのミルクティーが出来上がる生活を30年以上続けている。ちなみに私はコーヒーマイクローウェーブでお湯を通し

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

た変態嗜好、いや失礼、味覚異常などには文化の香りも感じないので口にしない。

アメリカの電子レンジはパワーがある。120V 60Hz。北海道の100V 50Hzと比べると、ざっくり30%以上はパワーが違う。だからウエイトレスには具体的に温める時間を計算して伝えることができる。その間にメニュー表をのぞき込み、何か変わったものはないか調べた。

目玉焼き? パイナップル? ライス? アップルビーにこんなメニューあつたかなーとしばし考え込むが、事実は事実である。これってあのハワイ風のロココってやつか? まあ、別にマズそうではないけど、外の気温はマイナス20℃でハワイ系も悪くはない。

確かに真冬の北海道でもアイスクリームを買う。室内は乾燥して温度は押し入れからトイレまでの部屋も常時22℃なので普通にアイスクリームを食べる。ちなみに私は北海道のミルクを使った抹茶味のハーゲンダッツとガリガリ君が好きだ。

金髪・ブルーアイのミルクサービズ!?

結局オーダーの内容は忘れてしまった。たぶんロココ系は頼まなかつたと思う。オーダーを忘れてしま

うくらい衝撃的なことがあつたのだ。ちよつと待てばミルクとビールが

来ると思つたが違つた。金髪・ブルーアイのウエイトレスは2つとも中ジョッキに、上部が泡系の黄色い物体を持つて来たのだ。

私は「あれつ、ミルクは?」と聞いた。ウエイトレスは「えーつ、ミルクは冗談だと思つてました」。私は「冗談でミルク頼むかよつ」と口には出しませんでした。

ウエイトレスは「今すぐミルク持つてきます」と言つたが、ビールが1杯余る。相方が「いいよ置いといて」ということで問題解決。

また数分待つとサービズなのか大ジョッキに、なみなみと注がれたミルクが登場した。内心、ここまでデカくなくても良いのに……と思つたが、また別の問題が発生した。ミルクが熱くないのだ。

昔マックでコーヒの温度が熱くお客がやけどしてマックを訴えたことがある。確かにこの量で電子レンジ120秒では熱くはならない。でも日本人なので我慢して熱くないミルクを口にした。

ただ、サービズが悪いという話でもないが、この人気チェーン店は19時過ぎなのに数名の客しかない。帰国後にネットでアップルビーのサイトを調べて食事をした場所を確認

すると、もつと驚きの結果が出た。店がなくなつていたので。

人口が1万5000人程度だとマーカーが小さすぎたのか、席がボロボロだったからなのか、ビールとミルクを間違えたからなのか。でもあの金髪・ブルーアイはかわいかつたなーというオヤジ話です。

金髪・ブルーアイの目の輝き♡

翌日からは大学で暗渠の勉強会が2日間の日程で始まりまし

近年の北海道の夏は決して温暖化してはいるとは思われないが、開催されたミネソタ南西部は温暖化の影響を受け、この20年で年間降水量が150mm程度は増えていると発表された。冬の降雪量は変わらないので春から秋の降水量がそのまま増加したことになる。その結果、どの町に行つても暗渠施工業者は存在するのだと農学部教授は発言した。

法律関係の話は面白かつた。以前は暗渠の施工をすることがなかつたので、暗渠から出る水を河川等に流す排水設備はなかつたそうだが、降水量の増加に伴い河川の整備の必要性が出てきた。

では誰がその費用を払い、上流の土地と下流の土地ではどのような排水の権利があるのかなどの話があつ

た。このことは降水量が少なく排水施設が十分ではない十勝や網走地方の将来にも関係するだろう。

2日目には今まで受けた勉強を審査するためなのか1時間くらいかけて図面書きのテストがあつた。与えられた土質、畑の面積、排水パイプの種類・配列・距離・落差などを図面に書き、現地やカナダの生産者が約15チームを組んで5分ほど皆の前で発表することになった。そんなことをするとは聞いてないので、単語の意味を理解するのに手間取り、制限時間ぎりぎりまで出来上がった。

与えられた条件は同じなので、答えもそれほど違いはない。発表は私がすることになり前に進むと、前列の金髪・ブルーアイ女性の私を見つめる目が輝きがすごいです。あなたは日本人、きつと我々と違う何かを導いてくれる♡って感じで両手を組んで見つめてくるんです。

そんなオヤジの与太話などに興味がないので、もつと具体的に数字を使って説明してくれつて? いやです。こちららタップリ自腹でアメリカくんだりして勉強会に参加しているのです。マトモにフランス語もできないのに他人様のお金使つて、「オレはフランス農業を見てきたんだ!」なんていう連中と一緒にされたくありませんからね♡